

工事の最前線
高校生が見学

帯広建協開催

帯広建設業協会（秋原一利会長）は21日、高校生を対象にした建設現場見学会を帯広市内で開催した。生徒たちは、現場担当者による工事の説明に耳を傾けた。同協会が毎年実施している取り組み（昨年度はコロナ禍のため中止）。帯広工業高校と帯広農業高校の生徒が、帯広開発建設部と帯広建設管理部が所管する工事現場を見学した。

このうち、帯広工業高校環境土木科2年の生徒29人



作業現場を見学する生徒たち

は、1966年に完成した十勝川に架かる旧中島橋の解体現場を見学。土の中にある橋の土台部分を撤去するため、掘削などに使うケーシングと呼ばれる銅管を立て込み、チゼルを落下させてコンクリートを取り壊し、ハンマーグラブを使って取り除く作業を間近で食い入るように見入っていた。その後、ドローンを使った作業など最先端技術について説明を受けた。

このほか生徒たちは、国道241号の平原大橋橋脚補強工事の現場も見学した。（完戸雅美）